

四季報

発行/(社)福島県建築士事務所協会東北支部青年部
(広報渉外委員会)
所在地/〒960-8061 福島市五月町4-25 福島県建設センター5階
TEL (024) 521-4033 FAX (024) 521-5087

＝平成23年度前期 青年部事業活動報告＝

平成23年度 第10回 通常総会

実地日：平成23年5月20日(金)

東北支部青年部の第10回通常総会が開催されました。今回は、例年とは異なり3月11日発生の東日本大震災の影響により会員のみでの開催とさせていただきます。冒頭で河野部会長よりこの震災についての感想や青年部としての今後の取り組みなどについて挨拶がありました。

この未曾有の大震災を踏まえ今年度の活動スローガンは下記の通りとなっております。

「元気回復！ 東北」～「青年部から元気を」～

未曾有の震災被害を受け、収束の見えない原発事故、さらにそれを受けた風評被害、我々の地域になかなか光明が見えない現状となっております。

しかし、その様な現状であることから、会員の皆さんが友情と絆を深め、また、他団体の青年部と連携し「我々の東北」を考え、青年部の役割を考え、地域の元気回復の一翼を担っていきましょう。



福島県建築士事務所協会青年部 第2回通常総会

実地日：平成23年6月17日(金)

東北支部・県中支部・会津支部の青年部に属する会員で構成された組織『県青年部』の第2回通常総会が開催されました。

総会において震災関連の事業など活動計画の承認を受けました。また、各支部が前年度に行った活動についての報告会が催されました。

報告会終了後には、会津の老舗割烹料亭で懇親会が開催され各支部青年部の親睦を深めました。



県青年部第一回例会（東北支部主管第一回例会）

実地日：平成23年7月2日(土)

研修会（福島県産材の良さを再確認しよう）

県青年部第一回例会として川俣町、田村市において建物の見学や木材についての勉強をいたしました。

また、今回の例会では、県産材を利用して建具造りの連携を図っている木工組合連合会青年部の方々と一緒に見学を行いました。

初めに川俣町に建設中の木造仮設住宅について大工業組合副会長の菅野様より概要説明を受けながら各住戸の見学をいたしました。この仮設住宅は、通常のプレハブとは違い県産材木材を使用しており木材ならではの温かみのある住宅となっているため入居される方の居住性の向上と心の安らぎを生む空間となっております。

次に向かったのは、田村市に建築された県産木材をふんだんに使用した緑小学校を見学しました。木材ならではの優しい空間となっており子供たちが楽しく過ごしているのではないのでしょうか。次に田村森林組合敷地内の木材の製材工場などで木材の加工過程について説明を受け会議室にて木材について勉強をいたしました。木材について知らない事を聞けてとても勉強になりました。

最後に近隣にある『神田の湯』で懇親会を開催し県青年部、木工組合連合会青年部の方々と親睦を深めました。



川俣 木造仮設住宅



外観写真－緑小学校



内部写真－緑小学校



田村森林組合敷地内



田村森林組合会議室



懇親会の様子

2011年度 第2回(8月)例会 被災事例発表会

実地日：平成23年8月26日(金)

東北支部青年部第2回例会としてこの度の大震災についての被災事例発表会を開催いたしました。当日は、プロジェクトによる震災時の写真などを説明しながら報告して頂きました。また、被災事例発表後には、今後の震災にどのように対処すればよいかなどについて意見交換会を行いました。

1) 被災事例発表会

- ・住宅等の被害について 小野 紀章
- ・内外装の被害について 丸とワークス株式会社 佐藤 佳樹
- ・浜方面の被害について (有)大野建築設計事務所 斉藤 良治
- ・文化・歴史的建物の被害について (有)鈴木設計 鈴木 勇人

2) 意見交換会

参加者感想

3月11日の大震災より5ヶ月が経過しましたが、まだまだ復旧できていない箇所が多く残る現狀に、あらためて、この度の災害の大きさを感しております。今回の被災事例発表会では、応急危険度判定、被災度調査、復旧工事などに、実際にたずさわった会員の方より説明を受けました。県内被害の一部ですが、知らなかった被害も多く、又、復旧工事の難しさも感じました。このような会で、設計者、施工者など業種の違う方々と意見交換できたことが、会に参加いただいた皆様の、今後の仕事や活動に生かされることを期待いたします。(総務研修委員会委員長 内山 勇二)



被災事例発表会



意見交換会

いわき方部被災地査察&交流会(会津支部主催事業)

実地日：平成23年9月3日(土)

会津支部青年部で主催した「いわき方部被災地視察&交流会」へ他支部との交流事業として東北支部青年部も協力参加させて頂きました。今回の事業内容としては、この度の大震災により浜通りで津波や液状化などの被害が発生したことを受け、被災地を視察することにより今後、想定される地震に備え、地盤・基礎の選定や地震に強い建物づくりを生かせることを目的として企画されました。また、現地では、『いわき次世代の会』のメンバーの方々より案内して頂き当時の被災状況について詳しく説明して頂きました。



破壊された堤防



破壊された住宅

◆研修旅行 長岡・山古志視察旅行

平成23年11月5日(土)・6日(日)、長岡・山古志への研修旅行を開催し、約20名の参加となりました。長岡・山古志は、2004年10月23日に発生した中越地震により多大な被害を受けた地区です。今年3月11日に発生した東日本大震災の復興に向け、長岡・山古志の復興住宅や近代建築物・歴史的建築物を視察し、どのように復興し現在まで至ったのかを観てくることが出来ました。

■ おじや震災ミュージアム「そなえ館」

「メモリアル拠点整備・運営等支援」が事業化し、中越大地震から7年目の平成23年10月、長岡市と小千谷市に3施設3公園ができた内の1つの施設です。

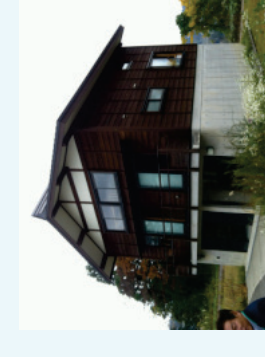
中越大地震の体験と教訓を多くの人と地域や子どもたちに、3時間～3日～3カ月～3年後とどう変化していったかを伝えることを目的とした展示をしています。

このことを踏まえ、当時復興住宅等の再建に奮闘していた3者の方々から、復興に向けての体制づくりや再建者との関わり方を学びました。



■ 山古志復興住宅

山古志地区に建つ復興住宅低床・高床タイプの2種類を見学しました。それぞれ地域の特性を考慮し、地域材を利用したつくりになっており、最上階はあえて壁などを仕上げない「から木建て」という手法をとって、再建者それぞれ、将来必要な住まい方ができるようにしてあります。長岡市住宅建設課・やまこし復興交流館・チームテラ・長岡建築協同組合の4者の方々から当時の現場や資材等の説明を受けました。



■ 弥彦神社

神社の社殿は、明治の大火に炎上し、大正5年に再築されました。2001年に平成大修葺事業として、本殿の御屋根葺替等85年ぶりの改築工事を行ったということです。

御祭神は天香山命で、住民に海水から塩をつくる技術、漁、稲作など農耕術などの基礎を教えたとのことでした。



■ 新潟県立近代美術館

新潟県民会館に併設されていた新潟県美術博物館を、新潟市における25年間の歴史を踏まえ、平成5年7月、県央に位置する長岡市の信濃川沿岸の豊かな自然に恵まれた「千秋が原ふるさと」の森に新潟県立近代美術館が設置されました。

